



楽しい釣りのために

海上保安部からのお知らせ

☎ 海のもしものは「118」番

★ 気をつけて！

こんな事故が起きています

【令和3年8月発生】

Aさんは沖で釣りをするためSUPにて出港した後、県が設置している灯浮標にSUPを係留し、釣りを行っていたところ、不意に何らかの波を受け海中に転落してしまいました。Aさんは潮流の影響を受けSUPへ近づくことができずにいたが、幸いにも近くを通りかかった船舶によって救助された。



海上では周囲の状況に注意し、航走波等による動揺に気を付けましょう。
気象・海象に注意するとともに自身の技量に見合った場所で活動しましょう。
海上保安庁では救命胴衣の常時着用を推奨しています。
【重要】航路標識への係留は原則禁止です。

【令和3年5月発生】

Aさんはプレジャーボートで釣りに向かう途中で機関操縦不能となり、機関室を確認したところ海水が流入しており、排水を試みるも、その後、転覆した。原因は機関室の中間軸ジョイントが経年劣化により破損したことで同箇所から海水が流入したものであった。



業者による定期的な点検等のメンテナンスを行いましょう。

【令和3年4月発生】

Aさんがプレジャーボートで航行中、突然エンジンが止まってしまった。原因は燃料の欠乏だったが、Aさんは満タンだと思い込んでいたため出航前に燃料の量の確認をしていなかった。



陸上と違って、エンジンが止まってしまうと船は流されてしまいます。出航前の点検は忘れずにしましょう。

【令和3年3月発生】

Aさんはヨットで帆走中に、Bさんは漁船で操業中にそれぞれ見張りを怠ったため、衝突した。幸い負傷はなかったものの、船が損傷した。



洋上では常に危険が潜んでいます。見張りは必ず行いましょう。



楽しい釣りのために

海上保安部からのお知らせ

☎ 海のもしものは「118」番

★気をつけて！

こんな事故が起きています

【令和3年2月発生】

Aさんは防波堤で作業中、躓いて転落した。転落した場所は潮が引いていたため3m下の砂地だった。

防波堤の上は足場が不安定で転落の恐れがあります。足元には十分気を付けましょう。



Aさんはプレジャーボートで船釣り中、場所を変えるために船を動かしたところ、エンジンからオイルが噴き出したため航行できなくなった。

出航前にはしっかり点検し、定期的に業者によるメンテナンスを行いましょう。



【令和3年1月発生】

Aさんは岸壁での釣りを終えて帰宅するため原付バイクに乗ってUターンをしようとしたところ、曲がり切れずに縁石にぶつかり海に転落した。幸いすぐに助け上げられたため擦過傷で済んだ。

岸壁周辺は海が近く、すぐに転落してしまう恐れがあるので、車両を運転する際は、スピードに気を付けましょう。



【令和2年12月発生】

Aさんは両手に荷物を持って岸壁から渡船に乗るために渡橋を渡っていたところ、足を滑らせ転倒した。渡橋の上には薄く氷が張っていた。

よく利用している船であっても、岸壁からの乗り降りの際はとても不安定になります。荷物が多い時でも無理をせず、まずは身体を確保しましょう。



Aさんはプレジャーボートで船釣り中、エンジンをかけたまま釣りの仕掛けを準備していたところ、船が西風に煽られて海上に設置されていたひじき網にプロペラが絡まり航行できなくなった。

船は風の影響を受けてすぐに流されます。海上では常に周囲の見張りを励行しましょう。





楽しい釣りのために

海上保安部からのお知らせ

海のもしもは「118」番

★気をつけて！

こんな事故が起きています

【令和2年11月発生】

Aさんは釣りをしようとプレジャーボートで港を出港、Bさんも釣りをしようと別の港からプレジャーボートで出港し、それぞれ目的地へ向けて航行していたところ、進路が交差して2隻が接触した。幸いお互い怪我もなく、船もかすった程度の傷だったが、接触の状況によっては大事故に繋がる場所だった。



高速で航行している時は特に見張りを厳重に行い、相手船の動作によっては早めに速度を落とす等事故の防止に努めましょう。

Aさんはプレジャーボートで船釣りを終え、港へ帰るために航行していたところ、エンジンに異音が生じて航行できなくなった。自分で調査するも原因がわからなかったため118番通報した。



航行中に船の状態に不安を感じた場合は、無理をせず助けを求めましょう。

Aさんは自分の船の先を短いロープを使って護岸に繋いで帰宅した。やがて潮が引いて、船の先が海面から上がり、護岸に乗り揚げた状態になった。



このままの状態でも再び潮が満ちてきたら、船尾から海水が入り船が沈んでしまう恐れがあります。船に係留する際は、潮汐を確認して使うロープの長さを考えましょう。

【令和2年10月発生】

Aさんはプレジャーボートに乗って船釣り中、釣り場を移動するためエンジンを起動させようとしたが、エンジンはかからなかった。調査した結果、原因はエンジンを止めている間も魚群探知機等の電子機器を作動させていたことによるバッテリーの過放電だった。



バッテリーがあがってしまうとエンジンは起動できません。エンジン停止中に電子機器を使用する際は十分注意しましょう。

Aさんはプレジャーボートに乗って船釣り中、釣り場を移動するため航行を始めたところ、エンジンに異音が生じてスピードが出なくなった。しばらくそのまま航行を続けたもののさらにエンジンが不調となったと不安に思ったため、118番通報した。



航行中に船の状態に不安を感じた場合は、無理をせず助けを求めましょう。



楽しい釣りのために

海上保安部からのお知らせ

📞 海のもしものは「118」番

★気をつけて！

こんな事故が起きています

【令和2年10月発生】

Aさんは渡船で島に渡り岩場で釣りを始めた。
島で釣り場を移動中、躓いて転び岩に顔面を打ち付けて、目の下を骨折した。



岩場は平らではないので、足元には十分注意しましょう。
また岩場は尖った部分が多く、身体が接触すると負傷しやすいので服装等にも気を付けましょう。

【令和2年9月発生】

Aさんは買ったばかりの中古のプレジャーボートを自分の定係地まで回航していたところ、エンジンが白煙を上げたため船を停めた。再びエンジンを起動しようとしたが、起動しなかった。
出港直後からエンジンの調子が良くなかったためAさんは不安を感じていた。



買ったばかりの船であっても出航する前には自分の目でしっかり点検しましょう。
また少しでも不安を感じた場合は無理をせず、航海を中止して修理の手配を検討しましょう。

【令和2年8月発生】

Aさんは釣りをするためプレジャーボートに乗って、魚群探知機を使いながら低速で航行していたところ、突然エンジンが停止してしまった。再びエンジンを起動しようとしたが、バッテリーがあがってしまっていてエンジンはかからなかった。
調査した結果、原因は電気系の異常のほかバッテリーの経年劣化、低速運航による充電不足だった。



バッテリーがあがってしまうとエンジンは起動できません。
出航前に十分点検しましょう。バッテリーの充電方法もしっかり把握しておきましょう。

Aさんはプレジャーボートに乗って船釣り中、釣り場を移動するためエンジンを起動させようとしたが、エンジンはかからなかった。
調査した結果、原因はエンジンを止めている間もGPSの電源をずっと入れっぱなしにしていたことによるバッテリーの過放電だった。



バッテリーがあがってしまうとエンジンは起動できません。
エンジン停止中に電子機器を使用する際は十分注意しましょう。



楽しい釣りのために

海上保安部からのお知らせ

海のもしもは「118」番

★気をつけて！

こんな事故が起きています

【令和2年8月発生】

Aさんは友達が操縦する水上オートバイに同乗していたところ、気分が高揚してふざけて海に飛び込んだ。ちょうどそこに浮いていた流木に顔を接触させたため、眉の上を7針縫う怪我を負った。



海の上で無謀な行為は直接生命に影響を及ぼすこともあるので、とても危険です。絶対に止めましょう。

8月のある日、Aさんは水上オートバイに乗っていたところ、エンジンが起動しなくなった。連絡手段を一切持っていなかったため、近くの漁船に携帯電話を借りて118番通報した。調査した結果、原因はバッテリーの過放電だった。



海に出る際に連絡手段の携行は必須です。また、バッテリーがあがってしまうとエンジンは起動できません。出航前にはしっかり点検しましょう。

岸壁で夜釣りをしていたAさんは、釣り場を変えようとライトを使わずに移動したところ隙間に気付かず、海中に転落した。仲間がすぐに通報したこと、Aさんにバケツを投げてつかまらせたこと、Aさんと岸壁をロープでつなげたことからAさんは流されることなく救助され、かすり傷程度で済んだ。



夜釣りにライトは必須です。仲間と行動し、万一のためにライフジャケットを必ず着用しましょう。

Aさんはプレジャーボートで船釣りを終え、港に帰っていたところ、突然エンジンが停止し航行不能になった。調査した結果、原因は配線の接触不良だった。



出航前にはしっかり点検しましょう。

Aさんはプレジャーボートに乗ってお酒を飲みながら釣りをした後、海に入り泳いでいたところ溺れて亡くなった。



お酒を飲んで海に入ることは非常に危険です。もちろん飲酒しての船の運航は遵守事項違反です！



楽しい釣りのために

海上保安部からのお知らせ

海のもしもは「118」番

★気をつけて！

こんな事故が起きています

【令和2年8月発生】

プレジャーボートで港に帰る途中、乗船者していたAさんが海中に転落し、回転していた船外機のプロペラに太ももが接触したため、手術を伴う大ケガを負った。



【令和2年7月発生】

Aさんは港に係留していた自分の船を陸揚げするためロープを外していたところ、隣の船のロープに自分の船が引っ掛かったので、足でこれを取り除こうとしたら誤って海中に転落した。その際に自分の船の突起物にふくらはぎが当たり手術を伴う大ケガを負った。



船にはいろいろな突起物を取り付けられています。さらに小さな船は不安定で揺れやすいので、自分の体勢を保っておかないとバランスを崩して、すぐに転倒してしまいます。船で釣りや作業をする際は、重心を低くし、しっかり踏ん張れるような姿勢を取るよう心掛けましょう。